

「森へおいで 天使に会えるよ」

主任司祭 晴佐久昌英

教会案内所&グッズショップ「天使の森」が誕生した。生みの親として、夢かなった喜びに感無量である。

「天使の森」は、教会内外への福音宣教を目的とした案内所兼売店で、高円寺教会入り口の「六角堂」を改装して11月16日より業務を開始した。活動の母体は教会委員会の元にある活動グループ「天使の森」であり、店長以下、信者を中心としたボランティアによって運営されている。

教会売店の老舗である女子パウロ会とドンボスコ社の協力のもと、経営アドバイザーとして有能な税理士と現役の経営者のサポートを得、プロのデザイナーや店舗ディスプレイの専門家にもお手伝い頂き、みんなの想像をはるかに越えた夢の売店ができあがった。キリスト教書籍やカード、ご像・ロザリオ・メダイから、修道院のクッキーや手作りの小物まで並べてあり、信者はもちろん、通りすがりの一般の方にも十分興味を持ってもらえる品揃えになっている。詳しくは、すでに「天使の森」のホームページも立ち上がっているので御覧いただきたい。

主任司祭の立場は「顧問」とした。わが子のような「天使の森」が自立して成長し、信徒の活動として未永く活動を続けていくためにも、「指導」ではなく「応援」していくつもりだ。

繰り返すが、「天使の森」の目的はあくまでも福音宣教である。

それを言うなら教会自体の目的が福音宣教であるはずだが、現実の教会は余りに閉鎖的であり、救いを求める人達に対していかにも無愛想である。このたびの東京教区における「宣教協力体」に向けての新しい一歩も、各小教区を「聖堂共同体」と位置付けて、地域における福音宣教へと一歩踏み出すようにとの聖霊の促しにほかならない。

「天使の森」は、そんな教会の新しい息吹のシンボルであり、高円寺教会の新しい顔として、教会の入り口でほほえんでいるのである。「森へおいで天使に会えるよ」というキャッチコピーの通り、その存在は道行く人に向かって「あなたに伝えたい喜びのしらせがあります」「ぜひあなたに来て頂きたい」と語りかけているのだ。

語りかけるということは関係を持つということであり、それは必然的に自らを変えていくということでもある。その意味では、「天使の森」は道行く人にとって教会への入り口の扉であると同時に、キリストの弟子たちが一歩踏み出していく出発の扉でもある。

ぼくは今、二階の自室の窓から天使の森を見守るのが本当に楽しい。散歩中の人不思議そうに看板を見上げ、面白そうにショーウィンドウを覗き、意を決して森の扉を開けると、ぼくは心の中で「ヨシ！」とガッツポーズをする。そこから、永遠の命に触れる尊い聖堂まではあと数歩なのだから。